

ネギネクロバネキノコバエの被害防止について

「土寄せ前にねぎのボディークチエックをしましょう！」

ネギネクロバネキノコバエ（以下、ネギネ）は、9月以降、気温の低下とともに活動が活発になり、幼虫によるねぎの食害が増加してきます。

土寄せ作業が進むと、ネギネ幼虫が好んで寄生するねぎの盤茎部に、薬剤が届きにくくなります。

また、ネギネの生息地域が年々拡大しており、これまで問題のなかった地域でも、新たな被害が発生する可能性が考えられます。

土寄せ前に、ネギネの寄生がないか、ネギを数本抜き取って確認し、計画的に防除対策を実施しましょう。

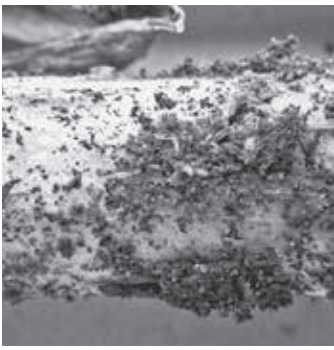


写真
ねぎを加害するネギネの幼虫

1 ネギネの特徴は？

ネギネは、幼虫による食害が問題となります。幼虫は集団でいることが多く、地中のねぎの盤茎部や葉鞘を好んで加害します。また、幼虫は、じめじめした環境を好むことから、排水の悪いほ場（部分）に多く発生する傾向があります。

ネギネは、卵→成虫のサイクルを年間6、7世代繰り返し、成虫の活動は3月中旬頃から12月上旬まで確認されます。ネギネの生息地では、定植時から11月頃まで防除を実施する必要があります。

2 効果的な防除方法は？

(1) 薬剤防除対策

農業技術研究センターから新たな防除体系が示されました。これまでのネギネの登録薬剤を最大限使用する徹底防除の体系を整理し、重点防除期（下記図①～⑤）を中心とした防除の実施を推奨しています。

【定植時①】前作や周辺で被害が多かった場合は、定植時から防除を行います。粒剤の土壌混和やセルトレイへのかん注を行います。

【成虫発生期②④⑤】ネギネは株元、地中にいるので、散布の際には株元によくかかるよう十分な量を用

図 ネギネ成虫の発生消長と重点防除時期



表 クロバネキノコバエ類防除薬剤例（令和5年8月2日現在）

IRACコード	農薬名	使用時期	使用方法
3A	フォース粒剤（劇）	定植時	作条土壌混和
		収穫30日前まで	株元散布
4A+28	キックオフ顆粒水和剤	定植前日～定植時	セルトレイかん注
4A	アドマイヤーフロアブル（劇）	定植前日～定植時	セルトレイかん注
4A	ベストガード粒剤	定植時	植溝処理土壌混和
	ベストガード水溶剤	収穫前日まで	散布
	スタークル顆粒水溶剤	生育期（但し、収穫14日前まで）	株元かん注
	スタークル粒剤	生育期（但し、収穫3日前まで）	株元散布
14	パダンSG水溶剤（劇）	収穫前日まで	散布
15	カスケード乳剤	収穫14日前まで	散布
	デミリン水和剤	収穫21日前まで	株元かん注
21A	ハチハチ乳剤（劇）	収穫7日前まで	散布
28	ヨーバルフロアブル	収穫3日前まで	散布
30	グレーシア乳剤	収穫7日前まで	散布
1A	ランネット45DF（劇）	収穫7日前まで	散布

います。

【土寄せ前③】成虫の発生量が増える土寄せ前の防除が最も重要です。ネギネがいないか確認し、寄生がみられる場合には防除を行います。

防除効果の高いかん注処理が望ましいですが、粒剤でも密度抑制効果が期待できます。粒剤の効果は土壌水分に左右されるため、散布前後の降水量に注意が必要です。

(2) その他の防除対策

○ネギネ幼虫は多湿を好むので、作付け中も排水対策を意識してほ場管理を行いましょ。

○ねぎやニンジンの他に、雑草（キ

ク科）にも寄生するため、適切に除草しましょ。

○収穫後のねぎ残さに、幼虫が寄生している可能性があります。そのまま放置すると発生源となってしまうため、適切に処理しましょ。

●出荷調整残さは、12月～2月は薄く広げて寒さにあてます。3月以降の暖かい時期は、ビニール等で覆い、キルパーで殺虫処理をしましょ。

●被害が大きく、収穫できないねぎをほ場にすきこむ場合には、石灰窒素（60～100kg/10a）を加えて耕うんし、速やかに腐らせます。